

上田市文化財調査報告書第103集

# 市内遺跡

平成19年度市内遺跡発掘調査報告書

2008.3

上 田 市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第103集

# 市内遺跡

平成19年度市内遺跡発掘調査報告書

2008. 3

上 田 市

上田市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う平成19年度市内遺跡発掘調査報告書である。なお、上田市は平成18年3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して発足した。そのため、現在、埋蔵文化財分布図の統合作業を進めているところであり、本文中の遺跡番号等は合併前のものを引き続いて使用している。
- 2 調査は国庫補助事業として上田市(上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係)が実施した。調査は報告書刊行を含めて、平成19年4月19日から平成20年3月26日まで行った。
- 3 現地調査は文化振興課文化財保護係 中沢徳士・和根崎剛、丸子地域教育事務所 滝沢敬一、真田地域教育事務所 尾見智志が行った。
- 4 試掘調査は主としてバックホーによるトレンチ調査を行った。バックホーの賃貸借・運転は、和農興・竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課等に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教育長	森大和	教育次長	小菅清
文化振興課長	伊藤正巳	文化財保護係長	小林栄子
		文化財保護係	中沢徳士・小林 伝・和根崎剛
- 8 本調査に係る作業分担は次のとおりである。

現地調査	中沢・和根崎・滝沢・尾見
整理作業	和根崎・石田奈緒・上原祐子・滝沢百合香・堀内通子
写真撮影	中沢・和根崎
- 9 本調査に際して多くの方々のご指導を賜った。ご芳名を記して、深く感謝の意を表したい。(順不同・敬称略) 川上 元・倉沢正幸・塩崎幸夫・助川朋広・時信武史
- 10 本書の作成に係る引用・参考文献は次のとおりである。

『上田市の原始・古代文化 埋蔵文化財分布調査報告書』 上田市教育委員会 昭和52(1977)年  
『郷土の工芸 染屋焼・東馬焼 付 下郷焼』 上田市立博物館 昭和47(1972)年  
『真田町の遺跡 - 遺跡詳細分布調査報告書 -』 真田町教育委員会 平成12(2000)年  
『信濃のやきもの』 菅平研究会 昭和44(1969)年  
『上信越自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書21 - 上田市内・坂城町内 -』  
長野県埋蔵文化財センター 平成11(1999)年  
『ふるさと上田の地名』 滝澤主税 平成11(1999)年  
『埋蔵文化財包蔵地分布調査書(内村地区)』 丸子町教育委員会 昭和46(1971)年

※その他、各遺跡の発掘調査の経過及び成果について、上田市文化財調査報告書を参考にした。

## < 目 次 >

(1) 信濃国分寺跡 (駐車場造成) .....	1
(2) 宮原遺跡 (集合住宅建設) .....	3
(3) 常入遺跡群 上町田遺跡 (店舗兼工場建設) .....	5
(4) 中ノ沢遺跡・半過古墳群 (国道18号上田坂城バイパス建設) .....	7
(5) 上田城跡 (高層集合住宅建設) .....	9
(6) 染屋台条里水田跡遺跡1 (宅地造成) .....	11
(7) 染屋台条里水田跡遺跡2 (個人住宅建設) .....	13
(8) 染屋台条里水田跡遺跡3 (遊技場駐車場建設) .....	15
(9) 染屋台条里水田跡遺跡4 (国道18号上田バイパス建設) .....	17
(10) 茂沢東遺跡 (道路建設) .....	19
(11) 染屋台条里水田跡遺跡5 (集合住宅建設) .....	21
(12) 東馬焼窯跡 (山林火災に伴う治山事業) .....	23
(13) 染屋台条里水田跡遺跡6 (分譲住宅建設) .....	25
(14) 染屋台条里水田跡遺跡7 (道路建設) .....	27
(15) 日向の館跡推定地 (便益施設建設) .....	29
(16) 染屋台条里水田跡遺跡8 (国道18号上田バイパス建設) .....	31
出土遺物 .....	33
平成19年度試掘調査地点位置図 .....	34
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況 .....	37
写真図版 .....	39
報告書抄録 .....	45

## (1) 信濃国分寺跡 (市遺跡番号 上田55)

1 調査地	上田市国分1210-2
2 原因	駐車場造成
3 調査日	平成19年4月19日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査面積	320㎡(トレンチ42㎡)
6 調査担当者	中沢徳士

### 遺跡の環境と経過

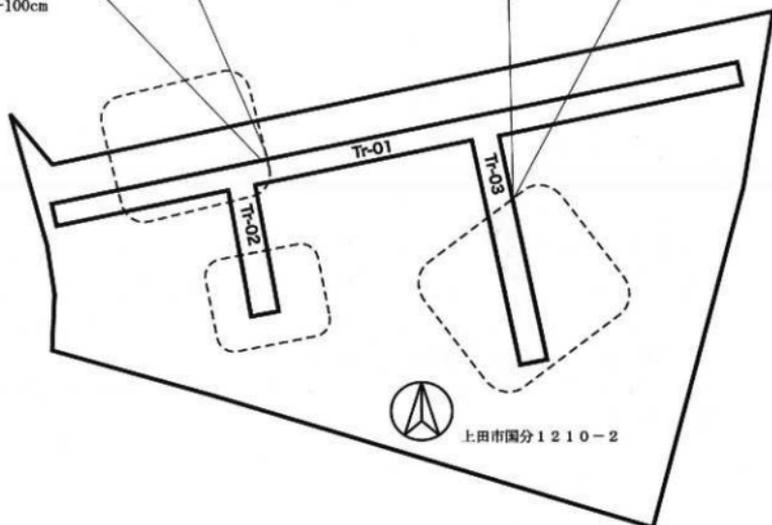
史跡信濃国分寺は昭和5(1930)年11月に現在の僧寺講堂跡を中心とする部分(4,178㎡)が文部省指定史跡となった。その後、昭和38年から昭和46年にかけて7次にわたる発掘調査を実施した。その結果、瓦・土器類などの多くの遺物が出土し、僧寺跡・尼寺跡の伽藍の全貌がほぼ確認されるという多大な成果を収めることができた。これを機に、昭和43年3月には125,161.17㎡が追加指定されたことにより、合計129,339.17㎡が国指定史跡となり現在に至っている。

調査地の国分1210-2は僧寺跡の南東隅に位置する。平成18年9月19日付で所有者から申請のあった史跡信濃国分寺跡の現状変更の内容は、当該地にアスファルト敷の駐車場を造成したいというものであった。

### 調査の結果

申請地は、想定される僧寺築地ラインに近いこともあり、遺構確認発掘調査を行い、国分寺跡に直接結びつく遺構等が確認されない場合は、申請にあるとおり、盛り土による遺構保護を図ったうえで工事を許可し、国分寺に結びつく遺跡等が確認された場合は改めて検討することで、事前の確認調査を実施したものである。

調査は、0.2バックホーにより調査地に3本のトレンチを入れて行った。その結果、トレンチ内に住居址とも推定されるプランが検出された。奈良時代以降の、国分寺存続期の遺構・遺物は皆無であった。なお、遺構まで掘削が及ばないことから、本発掘調査は実施しないこととした。



第1図 信濃国分寺跡(駐車場建設)

## (2) 宮原遺跡 (市遺跡番号 上田76)

1 調査地	上田市秋和字権現
2 原因	集合住宅建設
3 調査日	平成19年5月25日・28日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査面積	723.4㎡ (トレンチ48㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

宮原遺跡は『上田市の原始・古代文化』によると「上田面の段丘端にあり、およそ10,000㎡にわたって、縄文前期の上原式土器・石鏃・打製石斧・弥生後期の箱消水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などを出土している。しかし、大部分が工場用地の造成で破壊された」としている。しかし、段丘西端部において平成9年に行った試掘調査で遺構が残っていることを確認した。その結果を受けて同年から翌年にかけて実施した発掘調査では、弥生時代後期を中心とした集落跡を良好な状態で検出した。また、遺跡東部分の残存状況については、平成18年に実施した上記工場跡地の試掘調査で、わずかながら遺構・遺物を確認している。

本件は、以前発掘調査を行った区域に隣接しており、埋土をして地形が変わっているものの、地下にももとの地形が残っていることが推定されたため、5月10日に開発事業者と現地調査及び保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

1～3号トレンチ (Tr01～03) を設定して調査を行った。調査区北部に設けたTr01及び02は地山層まで掘り込まれて埋土がされ、その層厚は1～1.5m程度であった。周辺の状況から、調査区は埋土をして地形を変えていることが予想されたが、それを裏付ける結果となった。かつて発掘調査をした区域にもっとも近い箇所を設定したTr03も同様に埋土がされていたが、ここでは地山に黒色土が落ち込んでいる土坑を2基確認した。2基とも完掘したが、遺物は出土しなかった。

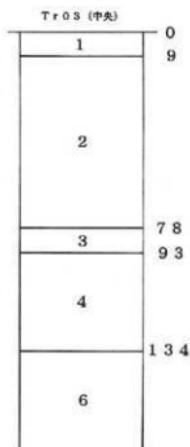
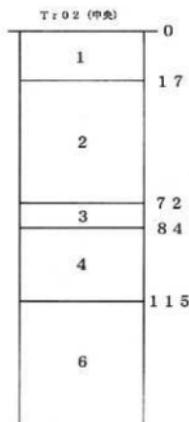
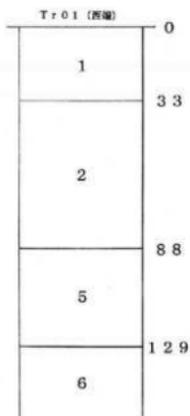
調査の結果、調査区内はかつて何らかの掘削が行われた後、埋土をしていることが判明した。ただし、土坑2基を検出したTr03周辺については、遺構が残存している可能性があったため、開発事業者と協議を行った。その結果、当該箇所は緑地として低木を植栽することにより、遺構まで掘削が及ばないこととした。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、慎重工事をお願いして試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 埋め土1 (碎石)
- 2層: 埋め土2
- 3層: 埋め土3 (碎石)
- 4層: 埋め土4
- 5層: 埋め土5
- 6層: 黄褐色土層 (地山)

第2図 官原遺跡 (集合住宅建設)

### (3) 常入遺跡群 上町田遺跡 (市遺跡番号 上田57)

1 調査地	上田市常入一丁目
2 原因	店舗兼工場造成
3 調査日	平成19年7月6日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを1本入れる
5 調査面積	2,092.0㎡ (トレンチ33㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

#### 遺跡の環境と経過

千曲川の第2段丘面で常入地籍を中心に最も広範に分布している遺跡が常入遺跡群であり、『上田市の原始・古代文化』には「信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて東西およそ650m、南北およそ400mの広範囲な地籍に～(中略)～弥生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出土し、一体の遺跡と思われる」とある。

本件については5月29日に開発事業届に係る現地調査を行い、開発事業者に計画地の一部が包蔵地の範囲であることを伝え、保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

#### 調査の結果

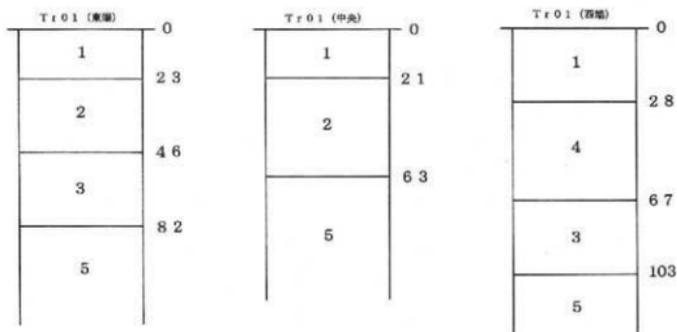
開発事業者立会いのもと試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。包蔵地の範囲内に1号トレンチ(Tr01)を設定して調査を行った。0.7～1m程度掘り下げると地山層が確認できたが、埋め土がほとんどで、包蔵地内はすでに攪乱を受けていることが判明した。遺構・遺物は確認することができなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 表土
- 2層: 埋め土1
- 3層: 赤褐色土層
- 4層: 埋め土2
- 5層: 明褐色土層 (地山)

第3図 常入遺跡群 上町田遺跡 (店舗兼工場建設)

#### (4) 中ノ沢遺跡・半過古墳群 (市遺跡番号 上田321)

1 調査地	上田市小泉字中沢
2 原因	国道18号上田坂城バイパス改築工事
3 調査日	平成19年7月9・10日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを9本入れる
5 調査面積	2,084.7㎡(トレンチ141㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

#### 遺跡の環境と経過

中ノ沢遺跡は『上田市の原始・古代文化』では、「(古墳時代)後期の土師・須恵器を出土する」とされ、半過古墳群は「千曲川左岸の山麓に点在する9基の古墳」で、一部石室等が残るものは3基で、他は全壊したとされる。国道バイパス工事に伴い、平成18年度に実施した第1次発掘調査では、弥生後期、古墳後期・平安時代の住居址及び未盗掘の古墳3基等を検出し、人骨をはじめ、土器や金属器など、多くの遺物を得た。

本件は、平成13年10月30日に長野国道事務所と具体的な保護協議を行った。包蔵地内の用地買収済区域について、平成17年5月24・25日に1回目の試掘調査を行い、その結果に基づき、第1次発掘調査を実施した。今回は一昨年の試掘調査の際に未買収だった区域について行い、その結果、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

#### 調査の結果

調査区内に1号～9号トレンチ(Tr01～09)を設定して調査を行った。その結果、Tr02から第1次調査で検出した古墳と同じ石を積んだ石積遺構を確認した。人為的に割ったと思われる石を不自然に積んでおり、昨年の検出例同様、未周知の古墳である可能性を否定できないため、周辺区域について発掘調査の必要があると判断した。Tr08及び09からは土坑を検出した。ただし、遺物がなく、時期決定もできないため、周辺区域の本調査は実施しないこととした。Tr01及びTr03～07からは遺構・遺物は発見されなかった。

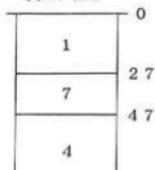
試掘調査の結果に基づき、長野国道事務所と協議を行い、今回の試掘調査区域の一部について、平成19年度に発掘調査を実施することで合意した。



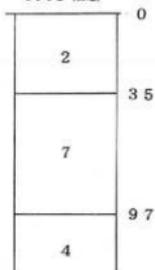
基本土層

(単位: cm)

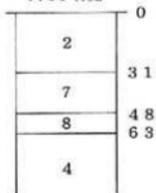
Tr01 (西端)



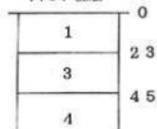
Tr02 (西端)



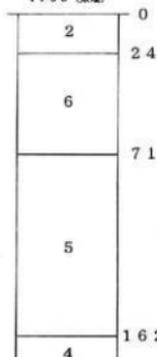
Tr03 (中央)



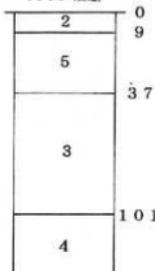
Tr04 (南端)



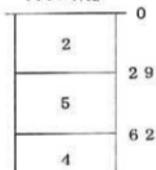
Tr05 (東端)



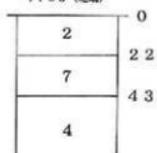
Tr06 (西端)



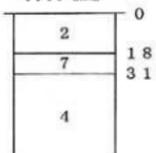
Tr07 (中央)



Tr08 (北端)



Tr09 (東端)



1層: 埋め土1 (碎石)

5層: 埋め土3

2層: 耕作土

6層: 埋め土4

3層: 埋め土2

7層: 黄褐色土層

4層: 黄褐色土層 (地山)

8層: 黒色土層

第4図 中ノ沢遺跡・半邊古墳群 (国道18号上田坂城バイパス建設)

## (5) 上田城跡 (市遺跡番号 上田66)

1 調査地	上田市中央四丁目
2 原因	高層集合住宅建設
3 調査日	平成19年8月1日～3日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを4本入れる
5 調査面積	2,997.0 m <sup>2</sup> (トレンチ175m <sup>2</sup> )
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

当該地は上田城下町の一角で、中層敷の北東の葎原町に位置し組長屋であった。町名は湿地帯を埋めてできたことに由来するとされ、武家地に含まれる区域である。平成17年度に隣接地で試掘をした際には、水性土壌と思われる堆積を確認し、城下町形成前の湿地帯あるいは旧矢出沢川に関係するものと推測された。

本件については、5月1日に開発事業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があり、計画地が該当する旨を伝え、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

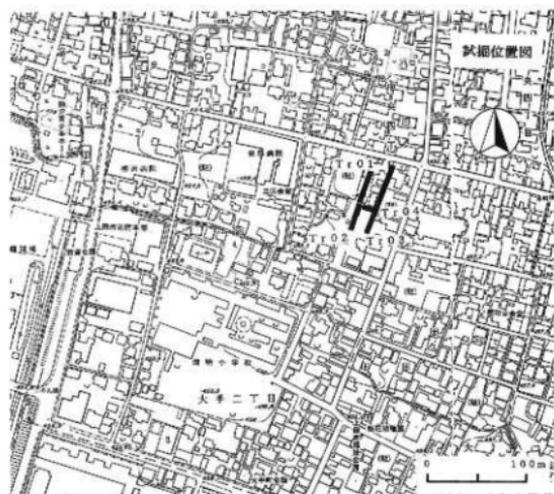
試掘調査を行ったところ、近世の遺物、近代以降の埋設陶器3基を確認した。近世の遺構は確認できなかった。

調査区内に1～4号トレンチ (Tr01～04) を設定した。Tr01から完形の甕が埋設された状態で出土した。甕の底部に木炭が堆積し、上部には土とともに漆喰の破片や導水管と思われる竹が混入していた。蓋と思われる木板も見られた。近代以降のものと推定される。Tr03からは底に直径15cm程の穴のある陶器が2個体並んだ埋設状態で出土した。両者とも円筒状に加工した石を用いて底に栓をしており、底部に木炭が堆積していた。片方は石栓の周囲にモルタルを用いて漏れを防いでおり、近代以降の所産であることは明らかだが、用途が不明である。水に関連するものであることが推定される。なお、それぞれの内部から木製の草履が片方ずつ発見された。廃絶時に意図的に入れた可能性が高い。陶器の下に管は確認されず、水路のようなものも認められなかった。周囲の状況から軒先に並べて設置していたものと推定される。

Tr04は家の基礎に用いた丸平石が一行に遺存していたため、その状況を確認するために設定した。石のすき間にモルタルが認められたため、近代以降の家屋跡と判断したが、家の方向は近世の組長屋当時とそれほど変わらず建てられたようだ。石を新しい家の基礎としてそのまま使用した可能性も否定できず、城下町遺跡調査の難しさを感じた。

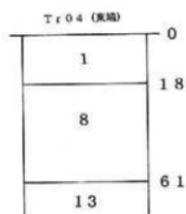
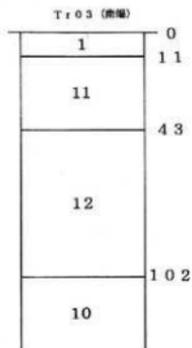
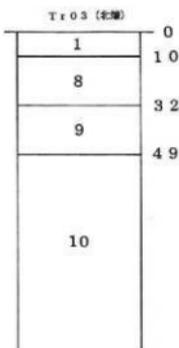
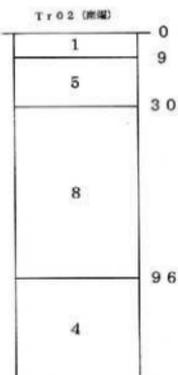
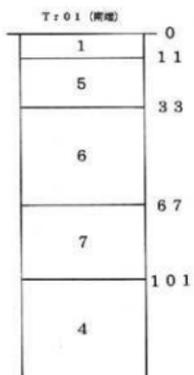
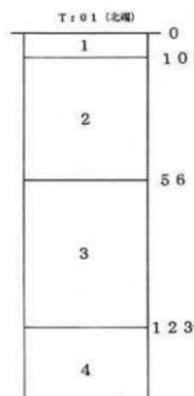
### 出土遺物 (埋蔵物発見届: 19文第255-1号)

Tr03から近世の播り鉢の破片を1点検出している (第17図-1)。



### 基本土層

(単位: cm)



- |               |             |             |
|---------------|-------------|-------------|
| 1層: 埋め土1 (碎石) | 6層: 埋め土5    | 11層: 暗黄褐色土層 |
| 2層: 埋め土2      | 7層: 明黄褐色土層  | 12層: 褐色土層   |
| 3層: 埋め土3      | 8層: 黒色土層    | 13層: 暗青灰色土層 |
| 4層: 暗灰褐色土層    | 9層: 暗褐色土層   |             |
| 5層: 埋め土4      | 10層: 暗黄褐色土層 |             |

第5図 上田城跡 (高層集合住宅建設)

## (6) 染屋台条里水田跡遺跡1 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字紋蔵
2 原因	宅地造成
3 調査日	平成19年8月16日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査面積	706.2㎡ (トレンチ86㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある(第21図・表1)。

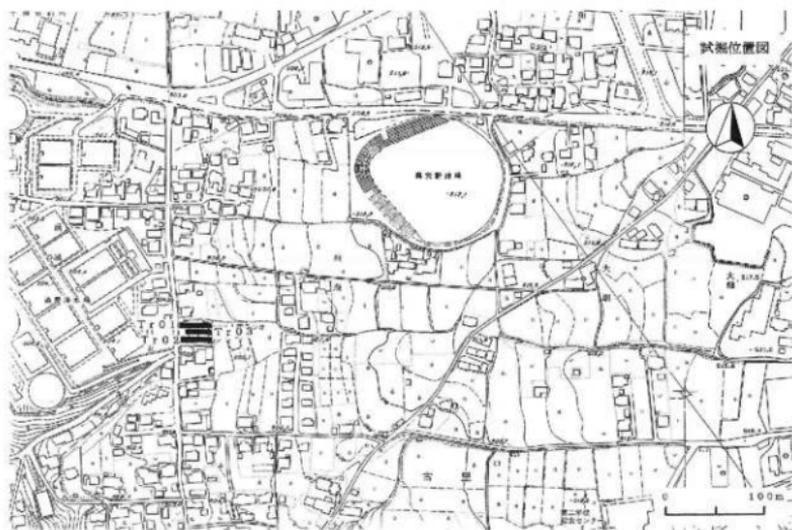
今回の事業計画地は市有地で、かつてNHKラジオ放送中継局として使用されていた場所であるが、市役所公有財産管理室から当該地を宅地造成して公売する計画を報告されたため、当該地が遺跡の範囲に含まれることを伝え、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

公有財産管理室職員との立会いのもと試掘調査を行った結果、遺構・遺物等は確認できなかった。当該地は染屋台の西側縁辺部で、近世末期から染屋焼の窯が営まれた斜面に隣接する。そのため、関連する遺構の存在も視野に入れて調査を行った。聞き取りによると、ラジオ中継局が建設される以前は、一帯は水田だったらしい。

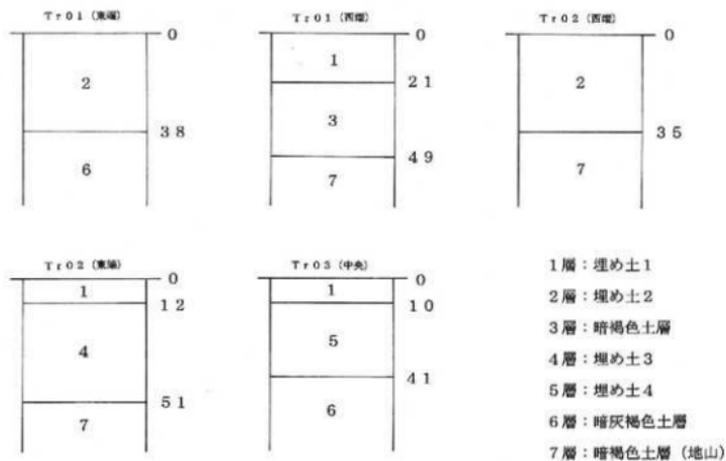
調査区内に1～3号トレンチ(Tr01～03)を設定した。0.3～0.5m程度掘り下げると地山層が確認できたが、地表下0.15m付近に、電波送信塔のアース線が放射状に埋設されており、また、局舎建設時の攪乱も著しく、遺構・遺物は確認できなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)



第6図 染屋台条里水田跡遺跡1 (宅地造成)

## (7) 染屋台条里水田跡遺跡2 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字紋藏
2 原因	個人住宅建設
3 調査日	平成19年10月18日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査面積	396.8㎡ (トレンチ25㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

本件については、当該地が遺跡の範囲に含まれることを承知していた地権者から、住宅を建設したい旨の相談が教育委員会文化財保護係にあったため、工事実施前に試掘調査を実施することで承諾を得た。今季まで水田として利用したいとのことだったので、耕作終了後に試掘調査を行い、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

地権者立会いのもと試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

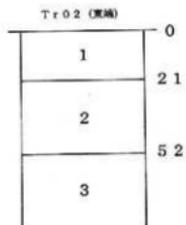
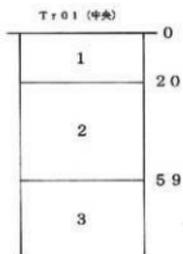
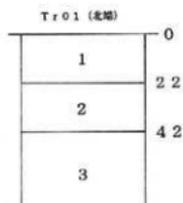
調査区内に1～2号トレンチ (Tr 01～02) を設定した。0.4～0.7m程度掘り下げると地山層が確認できたが、地山まで厚い水田由来の粘質土が堆積していた。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(單位: cm)



- 1層: 水田耕作土
- 2層: 暗灰褐色土層
- 3層: 暗褐色土層 (地山)

第7圖 染屋台条里水田跡遺跡2 (個人住宅建設)

## (8) 染屋台条里水田跡遺跡3 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市住吉字鳥居町
2 原因	遊戯場駐車場建設
3 調査日	平成19年11月6日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査面積	1,386.0㎡(トレンチ25㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

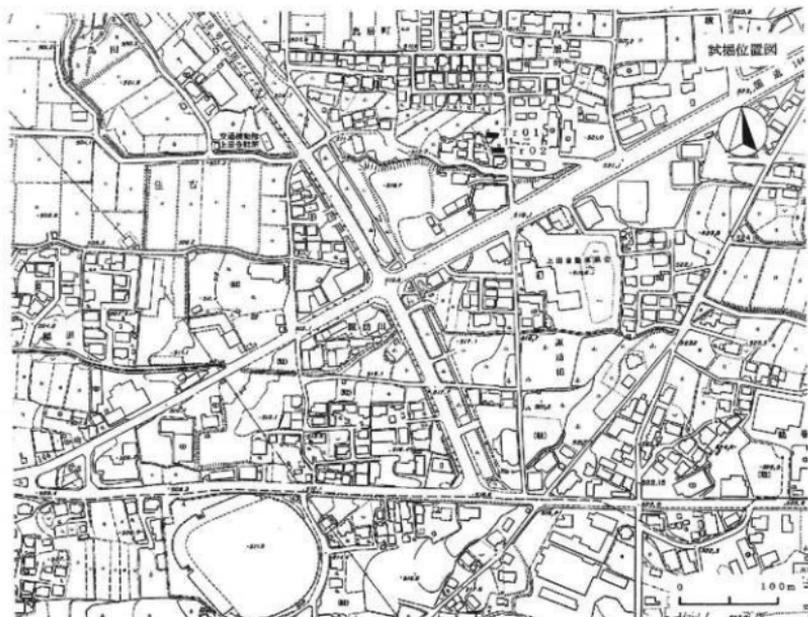
本件については9月21日に開発事業届に係る現地調査を行い、開発事業者に計画地の一部が包蔵地の範囲であることを伝え、保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

関係者立会いのもと試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査区内に1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定した。0.7～1.0m程度掘り下げると地山層が確認できたが、水田由来の灰褐色土の下に、明黄褐色の砂質層が堆積しており、近接して流れる小河川の影響も見受けられる。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(單位: cm)

Tr 01 (東端)	Tr 01 (西端)	Tr 02 (西端)	Tr 02 (東端)
1	1	1	1
18	21	22	19
42	2	41	2
69	49	3	49
4	3	73	3
	81	4	89
	4		4

1層: 耕作土

2層: 灰褐色土層

3層: 明黃褐色土層 (シルト)

4層: 黃褐色土層 (地山)

第8圖 染屋台条里水田跡遺跡3 (遊技場駐車場建設)

## (9) 染屋台条里水田跡遺跡4 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字大畑・堂前
2 原因	道路建設(国道バイパス工事)
3 調査日	平成19年11月19・20日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを5本入れる
5 調査面積	2,835.0㎡(トレンチ184㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

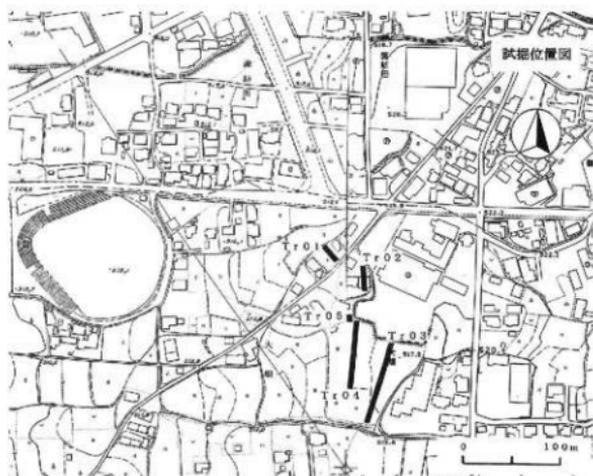
遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。なお、今回の調査区域の一部が平成7年に発掘調査した大畑遺跡に接しているため、中世の遺構・遺物が出土する可能性が認められた。

本件については、国道18号線上田バイパス改築工事に伴い、平成17年度から継続して実施してきた試掘調査である。今回の調査予定地は、用地買収の関係でこれまで実施できなかった区域である。本年度、長野国道事務所から用地を取得し試掘可能であるとの連絡を受けたため、住宅の解体撤去を待って、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

### 調査の結果

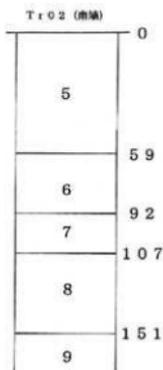
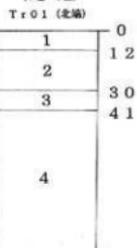
調査区内に1～5号トレンチ(Tr01～05)を設定した。Tr01は大畑遺跡に最も近接した箇所を設定した。地表下0.4～0.5m程度で地山層まで到達した。整地されていたが、かつては水田だったようである。Tr02は1m以上の盛土をして宅地としていた区域で、最下層には水田由来の粘質土がみられた。水田部分に設定したTr03～05は、地表下0.6～0.9m程度で地山層となるが、染屋台の特徴として、地山が部分的に変化することが多く、この区域も例に漏れず、現水田の耕作土下の土層はバラエティに富んでいる。また、かつて染屋焼の粘土を採取した可能性がある箇所も見られた。Tr04からは自然流路と推定される痕跡が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。

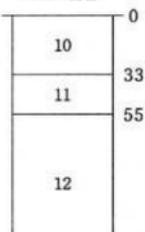


### 基本土層

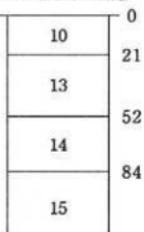
(単位: cm)



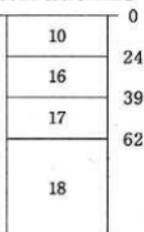
Tr 03 (南端)



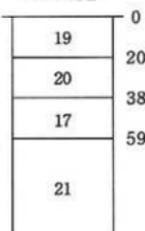
Tr 03 (南端から6.20m付近)



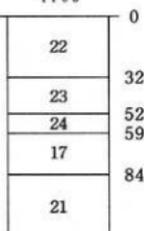
Tr 03 (南端から6.30m付近)



Tr 04 (北端)



Tr 06



- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1層: 表土          | 13層: 明灰褐色土       |
| 2層: 暗褐色土層       | 14層: 緑黄灰色土層      |
| 3層: 黄褐色土層       | 15層: 暗灰褐色土層 (地山) |
| 4層: 明黄褐色土層 (地山) | 16層: 明褐色土層       |
| 5層: 埋め土1        | 17層: 暗灰褐色土層      |
| 6層: 埋め土2        | 18層: 明赤褐色土層 (地山) |
| 7層: 埋め土3        | 19層: 耕作土         |
| 8層: 埋め土4        | 20層: 明褐色土層       |
| 9層: 青灰褐色土層      | 21層: 黄灰褐色土層 (地山) |
| 10層: 耕作土        | 22層: 埋め土7        |
| 11層: 黄灰褐色土層     | 23層: 褐色土層        |
| 12層: 黄褐色土層 (地山) | 24層: 赤褐色土層       |

第9図 染屋台糸里水田跡遺跡4 (国道18号上田バイパス建設)

## (10) 茂沢東遺跡 (市遺跡番号 丸子12)

1 調査地	上田市平井字茂沢
2 原因	道路建設
3 調査日	平成19年12月18日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査面積	2,395㎡ (トレンチ28m)
6 調査担当者	滝沢 敬一・和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

茂沢東遺跡は、丸子町教育委員会(当時)発行の『埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書(内村地区)』によると、茂沢集落の「東北裏側の位置で、東西約80m、南北約30mの範囲」で、山裾から南に傾斜し、「日当り、配水ともに良好」としている。また、「土質は腐蝕物の混入が多い黒色土層で約30cmある。縄文式土器及び土師器の破片が出土」という。

本件については、「平成20年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、丸子地域自治センター産業観光課からの回答を確認したところ、道路建設事業が包蔵地内に及ぶことが判明したため、保護協議を実施し、事業が具体化したところで試掘調査を行うことで合意した。12月13日に担当課立会いのもと現地調査を行い、試掘範囲の調整を行った。

### 調査の結果

1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定して調査を行った。調査区の西端、茂沢入川に接する段にTr01を設定して調査を開始したところ、地山直上の黒褐色土層中から土師器の小片が4点出土した。いずれも磨耗が激しく、原位置を動いていることが予想できる。河川に近い部分では、シルト質の層が堆積していた。地山は地表下0.9～1.1mに検出した。

Tr02は調査区の中央から東端までの区域に設定した。地山は深いところで地表下1.9mから検出し、直上に礫や人頭大の石を含む層厚0.5m程度の黒色土層を確認した。ここから縄文土器片と土師器の小片が1点ずつ出土した。いずれも磨耗が激しい。いずれのトレンチからも遺構は確認できなかった。

今回の試掘地点について、土層の堆積状況が上記報告書の記述と異なるのが気になるが、包蔵地の範囲内にあることは分布調査の折に撮影した写真等の資料から判明している。当該地はかつて桑畑であったが、その後、高麗人参の栽培をしたと聞いている。遺物が地中深くから出土した点については、背後の山からの土砂流入や、耕作で客土がされたためと考えたい。なお、茂沢入川の東側について調査区周辺の表面採集調査もあわせて実施したが、遺物を採集することはできなかった。一帯は背後に山が迫っており、遺跡の中心を他の場所に考えにくいことから、深耕により、遺物包含層を失っている可能性を考えたい。

### 出土遺物 (埋蔵物発見届:19文第453-1号)

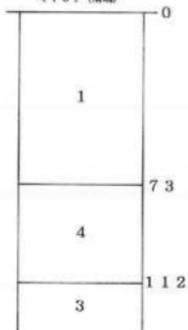
トレンチ内から縄文土器(第17図-5)と土師器の破片がわずかに出土している。



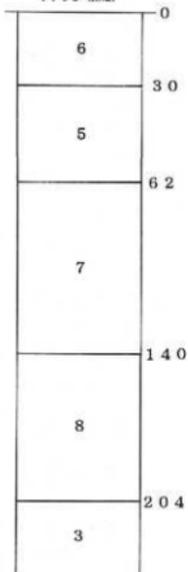
基本土層

(單位: cm)

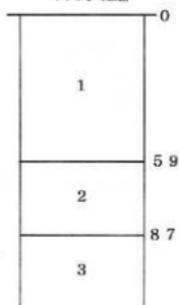
Tr 01 (南端)



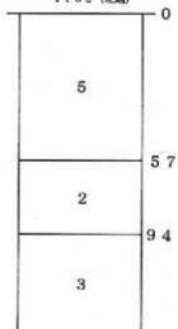
Tr 02 (南端)



Tr 01 (北端)



Tr 02 (北端)



1層: 表土

2層: 黑褐色土層

3層: 暗褐色土層 (地山)

4層: 黑褐色土層 (シルト)

5層: 耕作土

6層: 黃褐色土 (客土)

7層: 暗褐色土

8層: 黑色土層

第10圖 茂沢東遺跡 (道路建設)

## (11) 染屋台条里水田跡遺跡5 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市上野字大和町
2 原因	集合住宅建設
3 調査日	平成19年12月27日・平成20年1月7日
4 調査方法	重機を用いて幅任意のトレンチを3本入れる
5 調査面積	715.4㎡ (トレンチ63㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

今回の試掘調査地は、平成2(1990)年に発掘調査した柳沢遺跡(上田市遺跡番号 上田445)に隣接しており、古墳時代の遺構・遺物の出土が予想された。

本件については11月27日に開発事業届に係る現地調査を行い、開発事業者に計画地の一部が包蔵地の範囲であることを伝え、保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。聞き取りによれば、当該地は駐車場となる前は、盛土をして水田として利用されていたとのことである。

### 調査の結果

調査区内に1～3号トレンチ(Tr01～03)を設定して調査を行った。アスファルト舗装がされ、直下は0.1m程度の厚さで碎石が敷き詰められていた。0.3m程度掘り下げると地山まで到達したが、碎石層の下に水田由来の粘質土があり、直下に厚さ0.03m程度の黒色土層が存在していた。ここから縄文土器や古墳時代後期の土師器が数点出土したが、小破片で摩滅が著しい。当初、幅1m程度のTr01・02をL字形に設定して調査したが、掘立柱建物址の柱穴と推定される遺構を検出したため、両トレンチを含む幅広いTr03を設定し、遺構の広がりを確認した。その結果、土坑を11基検出したが、遺物を伴う土坑は3基で、他は水田耕作に伴うものと推定される。

遺物を伴う土坑が検出されたが、調査区の西端部に集中し、水田造成の際に原地形が低かった場所のみ遺構が残ったものと考えられる。柳沢遺跡の包蔵地範囲を含めて考えてもよさそうである。

なお、地下に影響を及ぼす範囲は完掘したため、発掘調査は実施しないこととし、開発事業者に慎重工事をお願いして試掘調査を終了した。

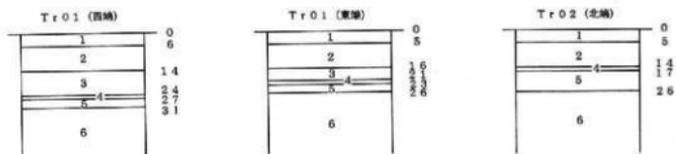
### 出土遺物 (埋蔵物発見届:19文第464-1号)

トレンチ内から土師器(第17図-2・3・4)の破片がわずかに出土している。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: (アスファルト敷設)
- 2層: 埋め土 1
- 3層: 暗灰褐色土層
- 4層: 黒褐色土層
- 5層: 暗褐色土層
- 6層: 明赤褐色土層 (地山)

第 11 図 染屋台条里水田跡遺跡 5 (集合住宅建設)

## (12) 東馬焼窯跡 (市遺跡番号 上田460)

1 調査地	上田市古安曾字神明前
2 原因	山林火災に伴う治山工事
3 調査日	平成20年1月8日
4 調査方法	現地踏査により遺物の散布状況を調査
5 調査面積	約2,500㎡
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

東馬焼窯跡は『上田市の原始・古代文化』には、平井寺窯業址という名で記載されており、「幕末期の比較的短期間にわたって、林東馬が築窯・操業したもので、製品は東馬焼の名で知られている。窯址は平井寺集落南部の神明前地籍・東面山麓の裾部にあり、現在は竹林になっている」と記されている。また、上田市立博物館『郷土の工芸 染屋焼・東馬焼付 下郷焼』には「焚口は東南に向いて」おり、「昭和26年に窯跡の発掘調査が行われ」た結果、「7段の登り窯であった」であることが確認され、発掘後に埋め戻されたと記録されている。さらに、窯跡の実測図が添えられている(第12図)。

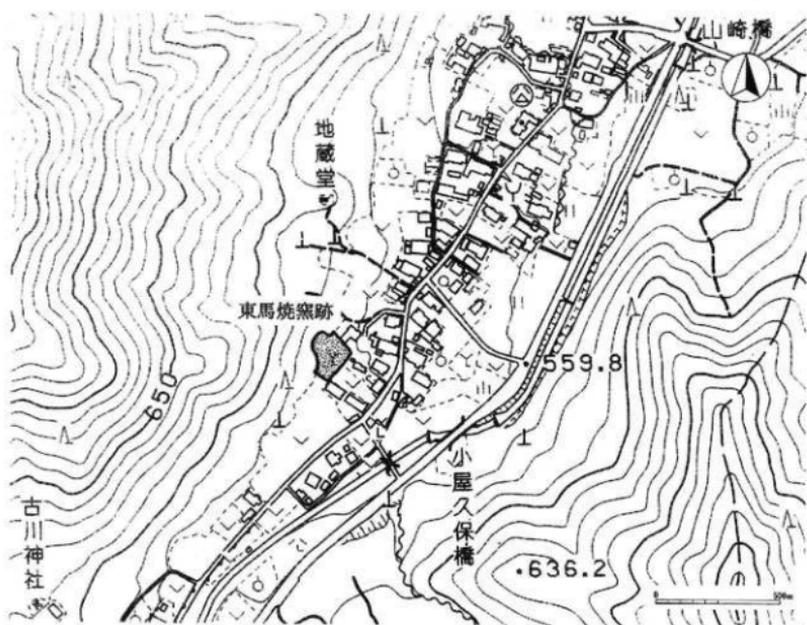
当該地は平成19年5月5日に発生した大規模な山林火災により、窯跡周辺の竹林や雑木が焼失した。火災後の現地調査においても、窯跡付近は崩れた窯体の部材や陶器の破片が散在しているのが確認できた。その後、「平成20年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、上小地方事務所林務課からの回答を確認したところ、治山事業が包蔵地内に及ぶ可能性があったため、12月14日に保護協議を行った。事業は山林が焼失したことに伴う土砂流出防止工で、その結果、市教委文化財保護係が現地踏査を実施して保存区域を明確にすること、林務課はそれに基づき包蔵地を避けて設計を行い、施工することで合意した。なお、包蔵地付近の工法は、丸太積み土留工が計画されている。

### 調査の結果

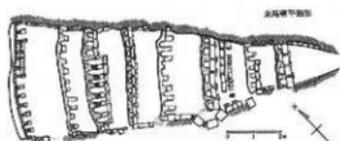
現地踏査により、窯体付近の地形及び遺物の散布状況を調査した。その結果に基づいて木杭を打ち、保存区域を明示して林務課に伝えた。

窯跡付近の竹林や雑木が焼失したため、窯体の形態が容易に確認できるようになっていた。火災から半年以上を経過し、新たな低木が生えるなど、以前の姿に復旧するのに時間がかからないものと思われる。

なお、協議の結果、現状保存が決まったため、遺物の表面採集は取って行わなかったが、窯体付近には東馬焼の破片が密に散布していた。



(参考) 東馬焼窯跡遺構実測図 (『信濃のやきもの』から転載)



東馬焼破片の散布状況



第12図 東馬焼窯跡 (山林火災に伴う治山事業)

### (13) 染屋台条里水田跡遺跡6 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字篠井原
2 原因	宅地分譲
3 調査日	平成20年1月25日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを1本入れる
5 調査面積	1,990.0㎡(トレンチ100㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

#### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

本件については10月11日に開発事業届に係る現地調査を行い、開発事業者に計画地が包蔵地の範囲内であることを伝え、保護協議を行った。その結果、圃場整備を実施した水田ではあるものの、盛土により新しい水田面を形成していることが推定されたため、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

#### 調査の結果

長方形の計画地内に1号トレンチ(Tr01)を設定して調査を行った。トレンチの北端部では地表下約0.3mに自然石を用いた旧水田の畔を検出した。土層の堆積状況から圃場整備を行う直前の水田に伴うものと思われ、条里制遺構の可能性は低いものと判断した。また、南端部では、地表下約1.2mから溝状の痕跡(自然流路か?)を確認した。厚い水田由来の層があり、2つ以上の水田面が残っているものと推定されるが、条里制に伴うものかどうかは判断できなかった。住居址等の遺構や遺物は確認できなかった。ただし、今回の事例のように、圃場整備を実施した水田でも、地下にまで影響を与えていない場合があるので、今後も注意を要したい。

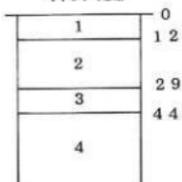
以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



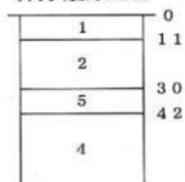
### 基本土層

(単位: cm)

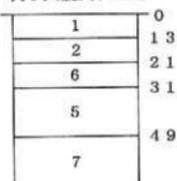
Tr 01 (北端)



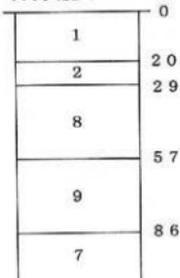
Tr 01 (北端から10m付近)



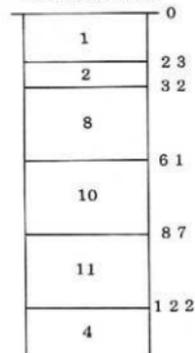
Tr 01 (北端から36m付近)



Tr 01 (北端から58m付近)



Tr 01 (北端から90m付近)



- 1層: 水田耕作土
- 2層: 黒褐色土層
- 3層: 暗褐色土層
- 4層: 灰褐色土層 (地山)
- 5層: 赤褐色土層
- 6層: 暗灰褐色土層
- 7層: 暗褐色土層 (地山)
- 8層: 明灰褐色土層
- 9層: 灰褐色土層
- 10層: 黄褐色土層
- 11層: 黒灰褐色土層

第13図 染屋台条里水田跡遺跡6 (分譲住宅建設)

#### (14) 染屋台条里水田跡遺跡7 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字膳ノ橋ほか
2 原因	道路建設
3 調査日	平成20年1月29日
4 調査方法	重機を用いて幅約1mのトレンチを1本入れる
5 調査面積	2,200.0㎡(トレンチ15㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

#### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

聞き取りによれば、今回の試掘調査地はかつて水田で、盛土をして駐車場にしたとのことである。

本件については昨年度、「平成19年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、市役所地域交通政策課からの回答を確認したところ、事業が包蔵地内に及ぶことが判明したため、保護協議を実施し、事業が具体化したところで試掘調査を行うことで合意した。1月25日に現地調査及び遺構が残存する可能性が低いとしてすでに着工済み区域の工事立会いを行い、その結果をもとに試掘範囲の調整を行った。

#### 調査の結果

1号トレンチ(Tr01)を設定して調査を行った。地表下0.8m程度で地山に到達したが、水田当時形成された粘質土の上に3層の盛土をしており、特に表面の碎石層直下の埋土1は硬く叩き締められ、重機による掘削でさえも手間取るほどであった。盛土については、隣接する高層集合住宅を建設する際に掘ったものを運び込んだという情報があり、水田の上にそのまま盛土をしたようである。遺構・遺物は発見されなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(單位: cm)

T-r 01 (南端)		
	0	
1	24	1層: 埋め土1
2	31	2層: 埋め土2
3	55	3層: 埋め土3
4	82	4層: 黒灰褐色土層
5		5層: 暗褐色土層 (地山)

第14図 染屋台糸里水田跡遺跡7 (道路建設)

## (15) 日向の館跡推定地 (市遺跡番号 真田94)

1 調査地	上田市真田町長字日向
2 原因	自治会運動広場 便益施設建設
3 調査日	平成20年2月1日
4 調査方法	重機を用いて幅任意のトレンチを1本入れる
5 調査面積	20.25m <sup>2</sup> (トレンチ8m)
6 調査担当者	尾見 智志・和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

日向の館跡推定地は、平成9年から11年にかけて実施された「真田町遺跡詳細分布調査」の際に新たに登録された包蔵地である。角間溪谷の入口にあたり、角間川右岸の段丘上に開けた僅かな平坦地に館跡の存在を推定したものである。一帯は中世に真田一族が本拠とした場所であるとされ、松尾城跡、中世の宝篋印塔や五輪塔が出土した日向畑遺跡に接する。日向畑遺跡は真田幸隆以前の一族の墓とされ、今回の試掘区域には真田家の菩提寺であった常福院が明治初頭まで所在したことが判明している。当該地はいくつかの近世文献史料に館の存在を推定させる記録があり、また同様の里伝もあったため包蔵地として登録したものであるが、これまで遺構・遺物の出土は知られていない。

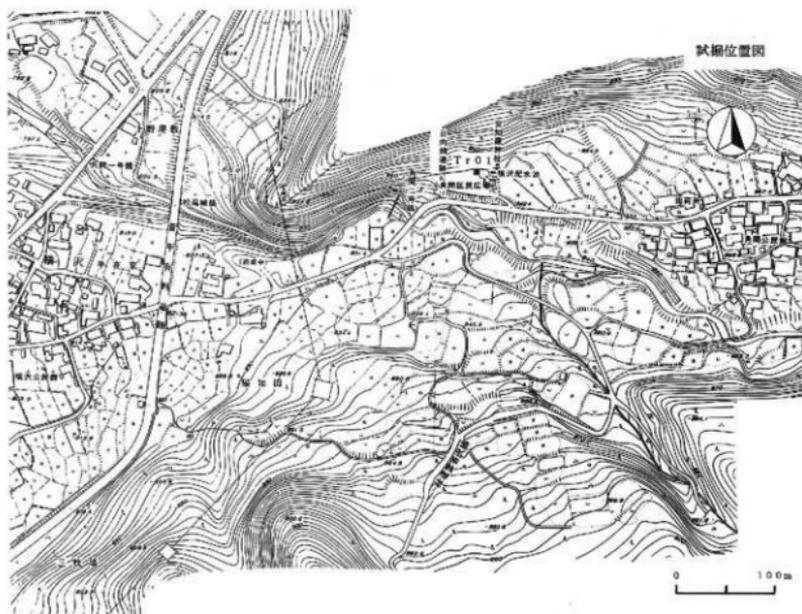
本件については、12月4日に真田地域自治センター地域振興課から、地元自治会が「真田町地域づくり支援事業」補助金を得て、当該地に便益施設(東屋)を建設する計画があるとの相談を受け、ただちに地域振興課及び地元自治会と保護協議を行った。その結果、計画地が日向畑遺跡とほぼ同じ標高であり、当時の地表面が残っている可能性があること、また、真田家の本拠とされる一帯であることから試掘調査を行うことで合意した。

### 調査の結果

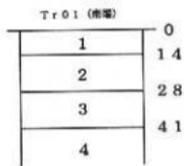
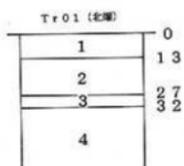
1号トレンチ(Tr01)を設定して調査を行った。地表下0.2~0.4m程度で地山に到達したが、地山の直上に黒色土を用いて平坦地を形成した痕跡を検出した。また、地山層まで掘り込まれた、黒色土を覆土とする土坑を1基検出した。地中で「ジョウシ」と呼ぶ、松尾城跡の石垣にも使用されている石を地山直上から何点か検出したが、遺構との関連は見出せなかった。遺物は発見されなかった。

掘削が及ぶ範囲はトレンチにより完掘したため、また、発見された土坑も性格が不明で遺物も検出されなかったため、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。

また、周辺の踏査を実施したところ、僧の墓を何点か発見した。地形からして大規模な寺院だったとは考えにくい。常福院についての詳細は不明な点が多く、廃寺となった寺のようすを知ることができる史料は僅かしか残っていない。



基本土層  
(単位: cm)



- 1層: 表土
- 2層: 暗赤褐色土層
- 3層: 黒色土
- 4層: 明黄褐色土層 (地山)

第15図 日向の館跡推定地 (便益施設建設)

## (16) 染屋台条里水田跡遺跡8 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字松木
2 原因	道路建設(国道バイパス工事)
3 調査日	平成20年2月25日
4 調査方法	重機を用いて幅任意のトレンチを4本入れる
5 調査面積	1,625㎡(トレンチ118㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

### 遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

本件については、国道18号線<sup>上田</sup>バイパス改築工事に伴い、平成17年度から継続して実施してきた試掘調査である。今回の調査予定地は、用地買収の関係でこれまで実施できなかった区域である。本年度、長野国道事務所から用地を取得し試掘可能であるとの連絡を受けたため、住宅や工場の解体撤去を待って、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

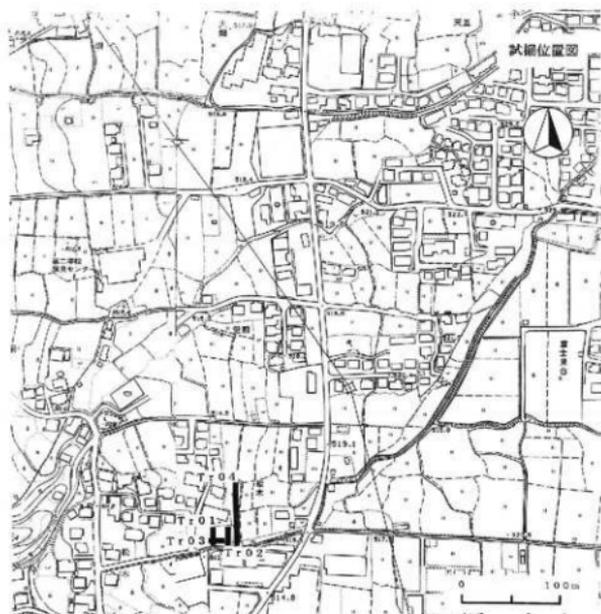
なお、今回の調査をもって、<sup>上田</sup>バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財の試掘調査は終了とした。

### 調査の結果

調査区内に1~4号トレンチ(Tr01~04)を設定した。Tr01~03を設定した区域は自然流路に面した水田で、地表下0.5m程度で地山層に到達した。トレンチからは土坑2基と水田耕作に伴うものと推定されるピットがいくつか確認された。Tr01から竪穴住居跡に似た黒色土の浅い落ち込みが確認されたため、Tr03を設定して、その広がりを確認した。プランは一部方形を呈しているものの、遺物や焼土等は発見されなかった。残存状況が悪いが、竪穴住居の痕跡かもしれない。Tr02からは土坑と水田耕作に伴うものと推定されるピットが1基ずつ確認された。いずれの遺構からも遺物が確認できなかったが、水田造成以前に住居跡等が存在していた可能性が認められる。

Tr04は南北に長く設定した。地山直上まで水田由来の土層が堆積していたが、南部はTr01~03同様に比較的水田耕作の影響を受けずに土層が保存されていた。しかし、遺構・遺物は発見されなかった。

今回の試掘調査区域のうち、遺構が存在する可能性が認められた部分については、トレンチを密に設定して調査をしたが、上記以外の遺構等は確認できず、遺物も全く確認されなかった。以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



### 基本土層

(単位: cm)

#### Tr 01 (北端)

1	0
2	8
3	31
4	53

#### Tr 02 (北端)

1	0
2	9
3	32
5	40
4	55

#### Tr 03

1	0
2	10
3	26
5	42
4	53

#### Tr 04 (北端)

1	0
6	11
7	39

#### Tr 04 (中央)

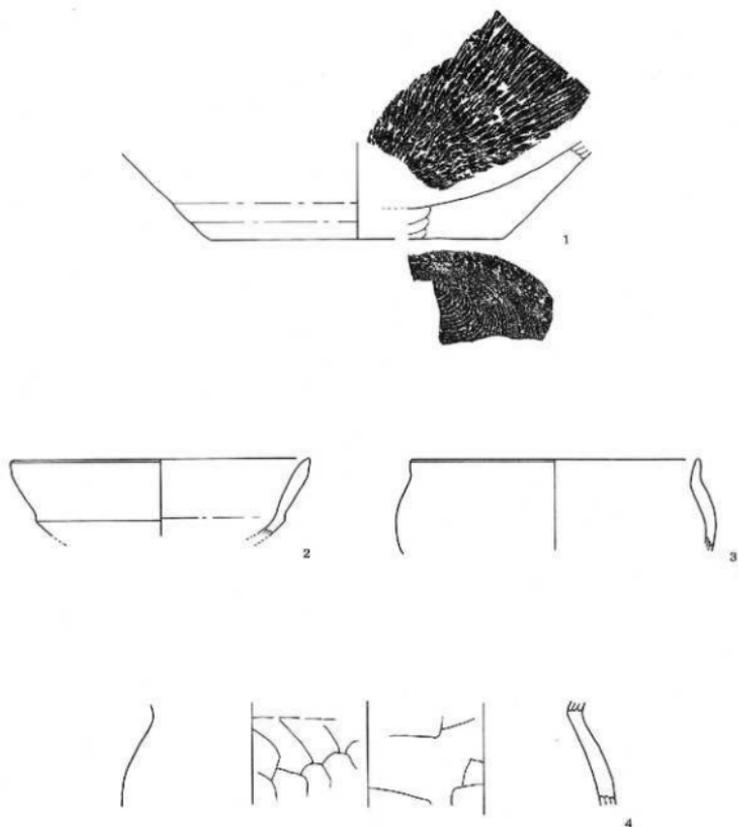
2	0
4	32

#### Tr 04 (南端)

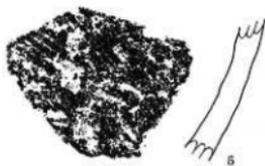
2	0
7	18

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1層: 耕作土        | 5層: 黄褐色土層       |
| 2層: 暗褐色土層      | 6層: 暗灰褐色土層      |
| 3層: 黒褐色土層      | 7層: 暗黄褐色土層 (地山) |
| 4層: 赤褐色土層 (地山) |                 |

第16図 染屋台条里水田跡遺跡8 (国道18号上田バイパス建設)

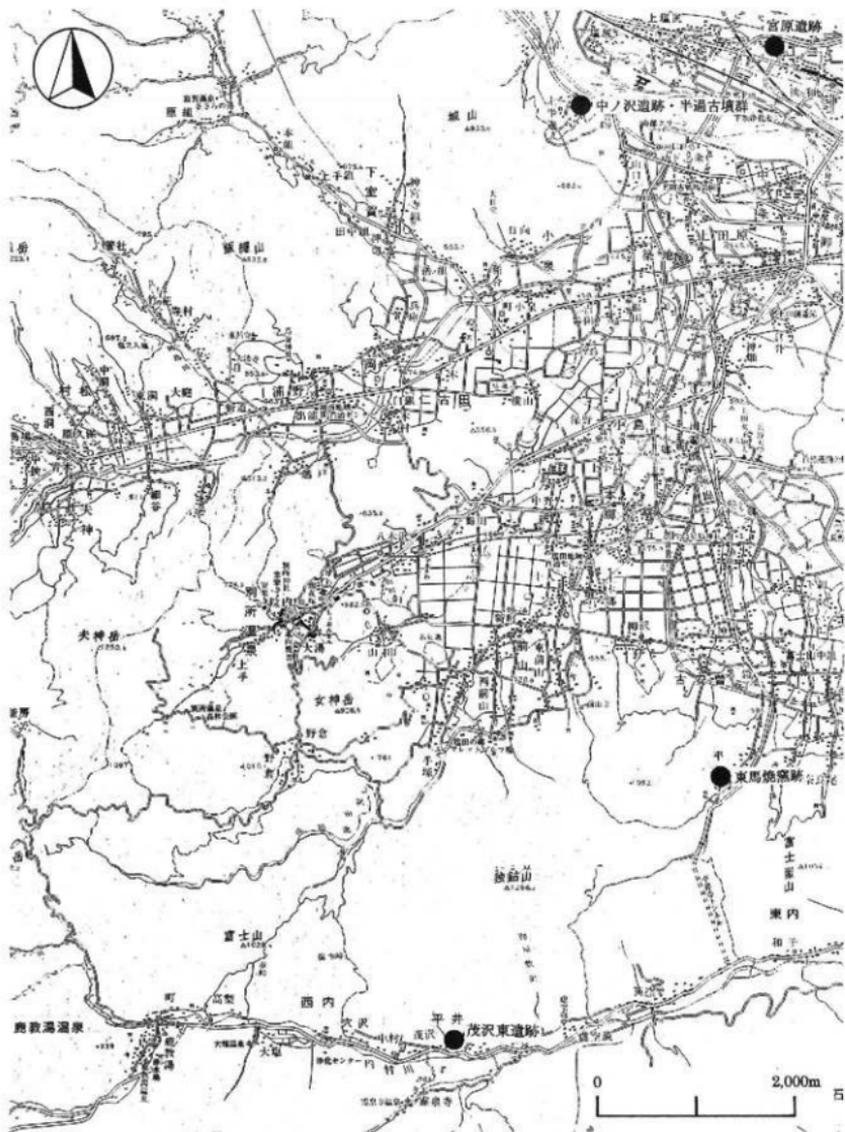


- 1 上田城跡（城下町）
- 2～4 築屋台桑並水田跡遺跡
- 5 茂沢東遺跡

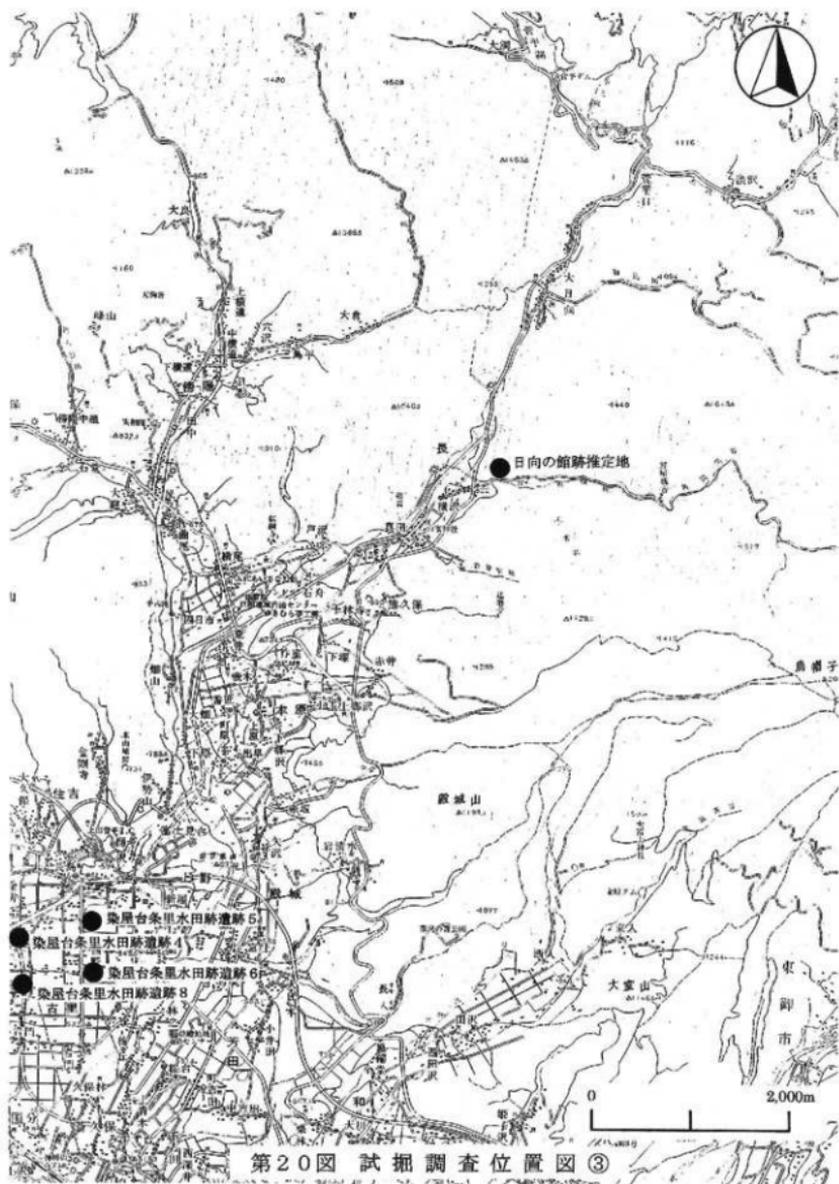


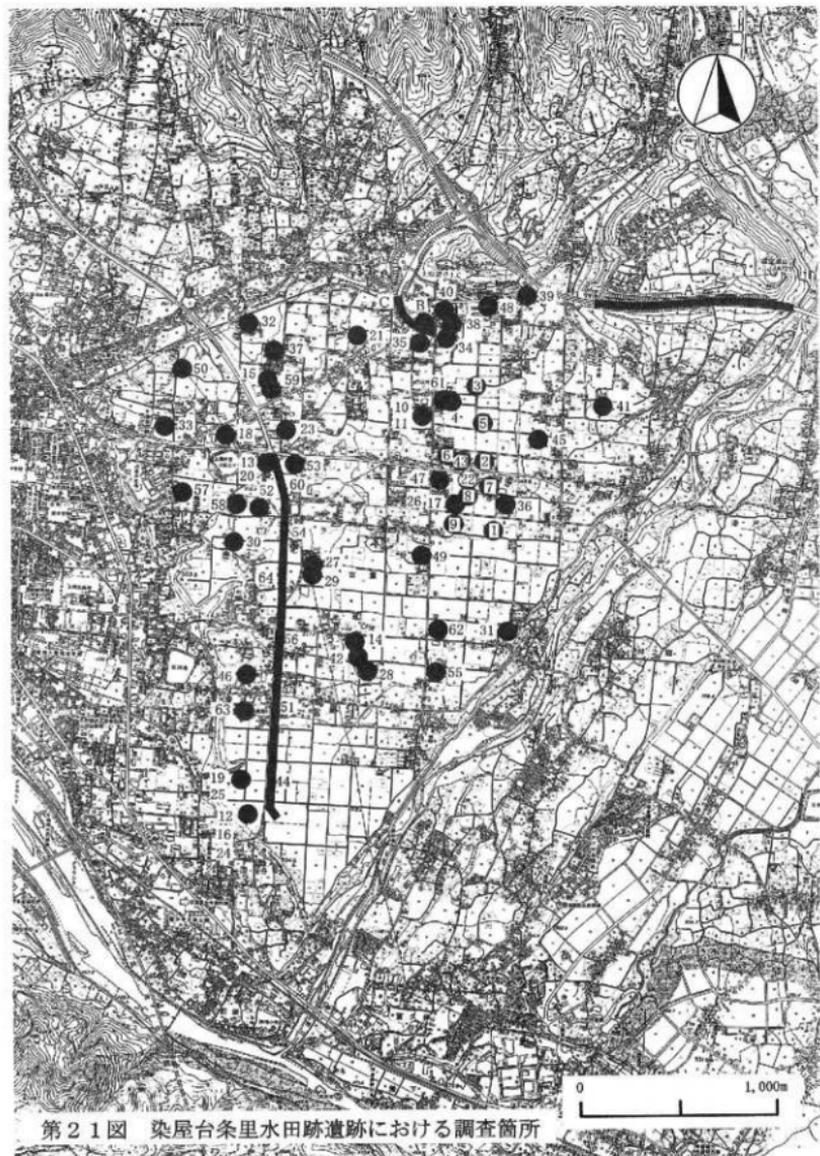
第17図 試掘出土遺物実測図 (S=1/2)





第19図 試掘調査位置図②





No.	年度	遺跡名	調査結果	備考	No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	S58	国府指定地跡調査第1(巻1)	古墳後期の遺構・遺物		33	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
2	S59	国府指定地跡調査第2	西之平遺跡		39	H16	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
3	S60	国府指定地跡調査第3	北之・古墳後期と東部の土器片		40		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
4	S61	国府指定地跡調査第4	中前期用の陶器断片		41	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
5	S61	国府指定地跡調査第4	なし		42		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
6	S62	国府指定地跡調査第5・B地点	なし		43		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
7	S62	国府指定地跡調査第5・B地点	古墳後期の遺物		44		染屋台条里水田跡遺跡2	弥生後期・古墳後期の土器片	
8	S62	国府指定地跡調査第5・B地点	古墳後期の遺構・遺物		45		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
9	S62	国府指定地跡調査第5・C地点	なし		46	H17	染屋台条里水田跡遺跡4	土器断片	
10	H2	染屋台条里水田跡遺跡	古墳後期の遺構・遺物		47		西之平遺跡	古墳時代の土器跡	
11	H4	染屋台条里水田跡遺跡	なし		48		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
12	H6	染屋台条里水田跡遺跡	東構・遺物等確認		49		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
13		染屋台条里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認		50		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
14	H7	染屋台条里水田跡遺跡2	なし		51		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
15		染屋台条里水田跡遺跡3	なし		52		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
16	H8	染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認		53	H18	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
17		染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認		54		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
18	H8	染屋台条里水田跡遺跡	なし		55		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
19		染屋台条里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認		56		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
20		染屋台条里水田跡遺跡2	中前期用の遺構・遺物		57		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
21		染屋台条里水田跡遺跡1	なし		58		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
22	H9	染屋台条里水田跡遺跡	東構・遺物等確認		59		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
23		染屋台条里水田跡遺跡1	なし		60	H19	染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
24		古墳遺跡	中前期用の遺構・遺物		61		染屋台条里水田跡遺跡5	古墳後期の遺構・土器断片	
25	H10	古墳遺跡	中前期用の遺構・遺物		62		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
26	H11	西之平遺跡	古墳中期・後期の遺構・遺物		63		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
27	H11	染屋台条里水田跡遺跡	なし		64		染屋台条里水田跡遺跡8	なし	
28		染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし		A	H5	染屋台条里遺跡	なし	
29	H12	染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし		B		染屋台条里遺跡	なし	
30		染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし		C	H5	染屋台条里遺跡	なし	
31	H13	染屋台条里水田跡遺跡1	なし					なし	
32		染屋台条里水田跡遺跡2	なし					なし	
33		染屋台条里水田跡遺跡1	なし					なし	
34		染屋台条里水田跡遺跡2	なし					なし	
35	H14	染屋台条里水田跡遺跡3	なし					なし	
36		染屋台条里水田跡遺跡4	なし					なし	
37		染屋台条里水田跡遺跡5	なし					なし	

※1「創地の伝説国府跡推定地確認調査」の感、以下同じ。

(報告書等で確認できる調査については記載した。なお、参考にした報告書名は省いた。)

表1 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況



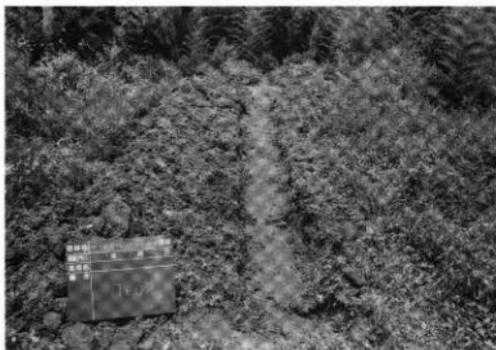
信濃国分寺跡（駐車場造成）



宮原遺跡（集合住宅建設）



常入遺跡群 上町田遺跡（店舗兼工場建設）



中ノ沢遺跡・半過古墳群 (国道18号上田坂城バイパス建設)



上田城跡 (高層集合住宅建設)



染屋台糸里水田跡遺跡1 (宅地造成)



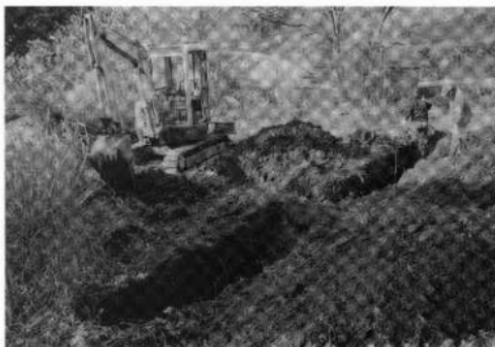
染屋台条里水田跡遺跡 2 (個人住宅建設)



染屋台条里水田跡遺跡 3 (遊技場駐車場建設)



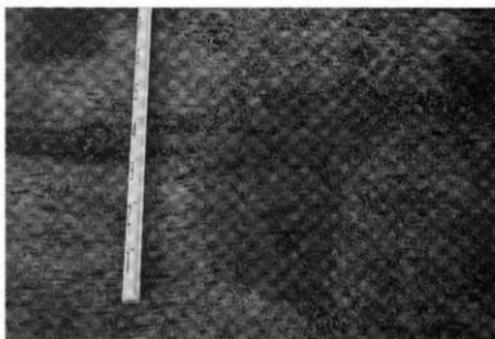
染屋台条里水田跡遺跡 4 (国道18号上田バイパス建設)



茂沢東遺跡 (道路建設)



染屋台条里水田跡遺跡 5 (集合住宅建設)



染屋台条里水田跡遺跡 5 遺構検出状況



東馬焼窯跡（山林火災に伴う治山事業）



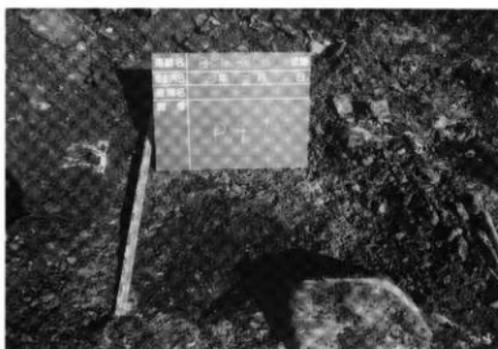
染屋台条里水田跡遺跡6（分譲住宅建設）



染屋台条里水田跡遺跡7（道路建設）



日向の館跡推定地（便益施設建設）



日向の館跡推定地 遺構検出状況



染屋台条里水田跡遺跡 8（国道 18 号 上田バイパス建設）

報告書抄録

ふりがな	しなにいせき 市内遺跡		
副書名	平成19年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第103集
編著者名	中沢徳十・和根崎剛		
編集機関	上田市教育委員会（事務局：文化振興課 文化財保護係）		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号 電話0268(23)6362		
発行年月日	平成20（2008）年3月26日		

所収遺跡名	所在地	コード		調査開始日	調査対象及び掘削面積(m <sup>2</sup> )	調査の原因
		市町村	発掘跡番号			
① 信濃国分寺跡	国分	上田	55	4月19日	320.00 42	駐車場造成
② 宮原遺跡	秋和字権現	上田	76	5月25日	723.39 48	集合住宅建設
③ 常入遺跡群 上町田遺跡	常入・丁目	上田	57	7月6日	2092.00 33	店舗兼工場建設
④ 中ノ沢遺跡・半邊古墳群	小泉字中沢	上田	321	7月9日	2084.74 141	上田阪城バイパス建設
⑤ 上田城跡	中央四丁目	上田	66	8月1日	2997.02 150	高層集合住宅建設
⑥ 染屋台条里水田跡遺跡1	古里字紋蔵	上田	52	8月16日	706.20 86	宅地造成
⑦ 染屋台条里水田跡遺跡2	古里字紋蔵	上田	52	10月18日	396.75 25	個人住宅建設
⑧ 染屋台条里水田跡遺跡3	住吉字鳥居町	上田	52	11月6日	1386.00 25	遊技場駐車場建設
⑨ 染屋台条里水田跡遺跡4	古里字大畑ほか	上田	52	11月19日	2835.00 184	上田バイパス建設
⑩ 茂沢東遺跡	平井字茂沢	丸九	12	12月18日	2395.00 28	道路建設
⑪ 染屋台条里水田跡遺跡5	上野字人和町	上田	52	12月27日	715.37 63	集合住宅建設
⑫ 東馬焼窯跡	吉安曾字神明前	上田	460	1月8日	2500.00 -	災害防止対策工事
⑬ 染屋台条里水田跡遺跡6	古里字藤井原	上田	52	1月25日	1990.00 100	分譲住宅建設
⑭ 染屋台条里水田跡遺跡7	古里字藤ノ橋ほか	上田	52	1月29日	2200.00 15	道路建設
⑮ 日向の館跡推定地	真田町長字日向	真田	94	2月1日	20.25 8	便施設建設
⑯ 染屋台条里水田跡遺跡8	古里字松木	上田	52	2月25日	1625.00 118	上田バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	検出遺物	保護措置
① 信濃国分寺跡	寺院跡	奈良～平安	住居址	なし	遺構面まで掘削しない
② 宮原遺跡	集落址	弥生～平安	土坑2基	なし	慎重工事を依頼
③ 常入遺跡群 上町田遺跡	散布地	弥生～平安	なし	なし	
④ 中ノ沢遺跡・半邊古墳群	集落址・古墳	弥生～平安	石積遺構ほか	なし	発掘調査を実施
⑤ 上田城跡	城館跡	近世～近代	築壇設置構ほか	陶器・石片ほか	慎重工事を依頼
⑥ 染屋台条里水田跡遺跡1	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑦ 染屋台条里水田跡遺跡2	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑧ 染屋台条里水田跡遺跡3	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑨ 染屋台条里水田跡遺跡4	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑩ 茂沢東遺跡	散布地	縄文～平安	なし	縄文土器片ほか	慎重工事を依頼
⑪ 染屋台条里水田跡遺跡5	条里制遺構	弥生～近世	土坑11基	土師器片ほか	慎重工事を依頼
⑫ 東馬焼窯跡	窯跡	近世～近代	-	-	設計変更により保護
⑬ 染屋台条里水田跡遺跡6	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑭ 染屋台条里水田跡遺跡7	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑮ 日向の館跡推定地	城館跡	中世～近世	土坑1基	なし	施工区域完掘
⑯ 染屋台条里水田跡遺跡8	条里制遺構	弥生～近世	なし	なし	

要約

上田市内において16ヶ所の埋蔵文化財包蔵地で試掘及び範囲確認調査を実施した。上田バイパスの改築工事に伴い、染屋台条里水田跡遺跡で住宅や商業施設関連の調査件数が増加している。

---

上田市文化財報告書 第103集

市内遺跡

平成19年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成20年3月26日

発行者 上 田 市

上田市教育委員会

印刷 一喜堂印刷

---